

大阪府における「防災教育推進フォーラム」の開催について

平成21年3月18日（水）に大阪府大阪市で「防災教育推進フォーラム」が開催されました。フォーラムには約400人が出席され、「東南海・南海地震の脅威に備える～地域と学校で「防災力」を高めよう～」をテーマに「大地震に備えるために地域と学校で防災教育をどのように推進するか、あるいはその実践を阻む壁は何か？」に就いて活発な討議が行われました。

1. 基調講演要旨

「大地震に備える！～地域と学校での防災教育～」

林 春男 京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授

- ・東南海・南海地震が襲来する確度は極めて高く、2020年から2040年に起こりやすいと言われている。
- ・その時の私たちはどうなっているか、大半が高齢化を向かへ多くの人は要介護者となっている。
- ・このときに災害を乗り越えて行く社会の中心人物は1980年以降に生まれた若者であり、防災教育を考えていかねばならないキッカケでもある。
- ・被害の出ない被害抑止力と被害発生後の復旧を行う力を備えて総合的に高めることが防災力である。
- ・人口の高齢化進展と過去に被災経験を有しない世代が増えることにより、「体験の風化」が深刻である。
- ・命の危険に晒されるのは私たち、生き残って乗り越えていくのも私たちと考えると、防災に就いて積極的に学ぶのは自分たちであり、時代を担う若い方々の生きる力と能動的な学習展開が必要となっている。

2. パネルディスカッション要旨

「防災教育！ 実践を阻む壁は何か？」

NHK大阪放送局住田チーフアナウンサーのコーディネートのもと、各パネリストから夫々の分野での活動状況の説明があった後、「防災教育推進」と「地域防災力向上」の2点について議論を行いました。

【防災教育推進】

- ・防災教育とは、特別な授業ではなく英語や音楽の通常教科の中に素材を組み込み実践、特に若者たちには好きな分野と防災を繋げて興味を持たせること、更にその悲しみの経験を1つのコアにすることが大切である。
- ・防災を考える時はまずきちんと自然を知る事。我々の住む地球とはどんなふう動いてるんだということを知る事。そのための勉強（地学）を学んだ若者が地域に出て地震のメカニズムを教えるような活動を実践すべきである。

【地域防災力向上】

- ・高校生や大学生をリーダーに育てるには訓練だけするのではなく、学生に対して出番を与える、つまり主役ではないが、そういった訓練の出番を作っていただくということは非常に大きい要素の1つである。
- ・自分の住んでいる周辺の、特に自然が猛威を振るうような中で、「自分たちはどうやって生き抜いていくのか」という課題をコアにしながら、防災に留まることなく「安全・安心な暮らし」というものを自分たちで実現できるようになっていくと、遠回りしているように見えるかも知れないが本当の意味での「地域防災力」は上がると言える。

3. 参加者からの質問

- ・「防災教育における教材や資料・マニュアル類は公開されているのでしょうか」との問いに「チャレンジ・プラン」・「マップコンクール」そして「防災甲子園」等、展示含めて教材のヒントがあるので関連のホームページをご覧頂きたいと文部科学省から説明があった。